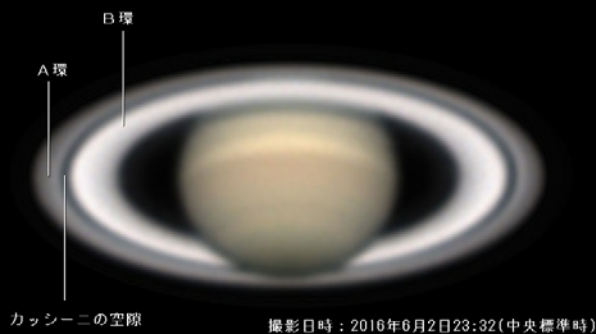


望遠鏡で見た土星



現在、土星の環を見上げています

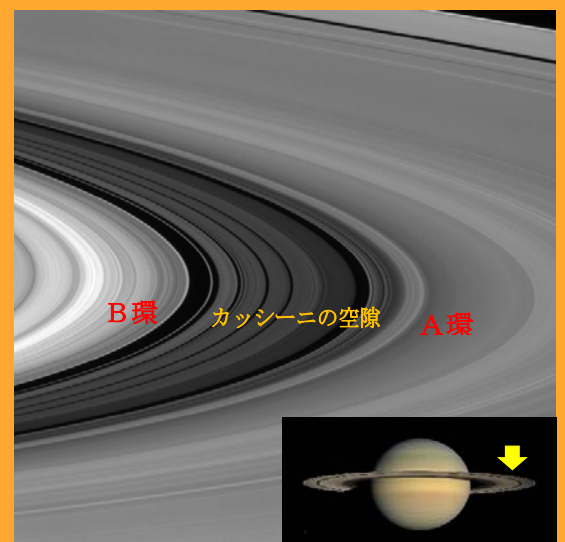
2017年6月

どせい かんさつ
土星を観察しよう

画像: 2016年6月2日の土星 国立天文台天文情報センター

発行: 福岡県青少年科学館

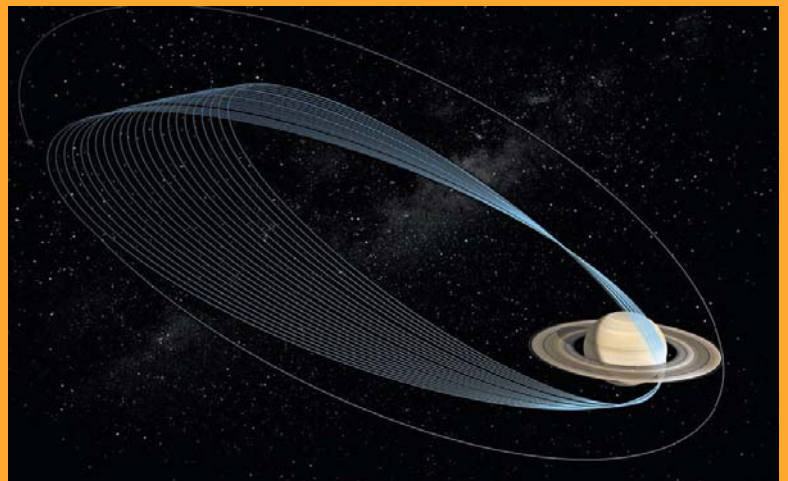
美しい環を持つ土星は、その美しさから「太陽系の宝石」と呼ばれています。土星の環は小さな望遠鏡でも観察できるので、観望会でも大人気です。土星の環の正体は、数ミリメートルから数メートルくらいの氷の粒がたくさん集まったものです。環に模様がみえるのは、氷の粒が密集している部分と少ない部分があり、氷の粒が密集している所では、光を多く反射し明るく見えるからです。観察するとA環よりB環の方が明るく見えます。氷の粒が少ない部分は、光をあまり反射しないので、暗く隙間があるように見え、A環とB環の間の隙間は「カッシーニの空隙（くうげき）」と呼ばれています。他にも、土星にはたくさんの環が確認されています。



画像:土星の環 NASA

探査機カッシーニ「グランドフィナーレ」

4月26日から探査機カッシーニが、最後のミッションを行っています。このミッションをNASAは「グランドフィナーレ」と呼び、カッシーニは、土星と環の間を通り過ぎるような軌道を22回行います。土星の近距離から大気や環を観察することができ、土星のより詳しい姿が分かれると期待されています。そして今年9月15日に土星へ突入して、打ち上げから20年間の任務を終了します。



画像:土星と環の間を通過する探査機カッシーニの軌道 NASA/JPL-Caltech